

2005年6月30日 発行

日本NIE学会会報 第1号

日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2

国立大学法人横浜国立大学教育人間科学部

影山清四郎研究室内

TEL/FAX 045-339-3433

E-mail kseishiro@edhs.ynu.ac.jp

会報の発行にあたって

日本NIE学会会長 影山 清四郎

日本NIE学会の会報第一号をお届けします。

昨年5月1日に枝元一三・小田迪夫・小原友行・高田喜久治・寺尾慎一・柳沢伸司・谷田部玲生さんと共に、NIE学会の呼びかけ人会議を開催いたしました。それ以降、2回の呼びかけ人会議を経て、7月31日に34名の方の賛同をえて第一回の準備会を開き、その後3会の準備会を重ねて、本年3月20日に135名の参加者と共に設立大会を開催することができました。あらためて、学会設立へ向けてご尽力いただいた方々へ感謝いたします。

学会設立までの具体的な足跡は、急ピッチでした。しかし、大会当日の参加者数ならびに学会加入申込者が200名を超えたことは、学会設立が待たれていたと考えます。

この学会は、その構成メンバーが学校・大学関係者のみならず、新聞関係者や市民の方々と多彩であることに特色があります。それと共に、NIEは学校では教科・領域として、大学等では講座・講義として制度化されているわけではありません。ある面では、教育界での存立基盤はきわめて脆弱であるとさえいえます。そこに、既存の教育関係の学会と異なる性格があります。

「教育に新聞を」というとき、教育の概念を広くとらえると、NIEはあたかも水の流れにあらゆる教育活動に染みとおって行く可能性をもっています。まだ、か細い水の流れですが、今後、世の中の一つの流れとして、無視できない大河となるためには、立場・専門を異とする会員相互の対話が必要だと思えます。この会報が、そうした対話を生み出す礎になることを願っています。

設立大会報告

日本NIE学会の設立大会が3月20日、東京・学士会館で全国から135名の教員、大学関係者、新聞関係者らの参加により開催されました。

- 1 呼びかけ人代表・影山清四郎氏 あいさつ
- 2 文部科学省初等中等教育局、常盤豊・教育課程課長 祝辞
- 3 総会議事
 - 学会規約、規約実施細則の決定
 - ・規約(案)を一括して審議。顧問の位置づけは19条による。
 - ・役員(案)について。全て準備委員の中から選出したい。
 - …1、2ともに承認。役員が承認されたため影山が会長に就任。
 - 事務連絡
 - ・名簿の訂正。4ページ13人目は遠山(立教小)に、5ページ三上(月寒)は一名のみに、それぞれ変更。
 - ・第2回総会は11月13日(日)に大阪教育大学天王寺キャンパスで開催。
 - ・役員、委員長は任期が満了すれば、全員の選挙で決定する。
- 4 講演 「社会力の育成こそが教育の急務 日本NIE学会の発足に期待する」
門脇厚司・筑波学院大学学長
- 5 シンポジウム 「日本NIE学会設立の意義と可能性」
パネラー 寺尾慎一(コーディネーター)、小原友行、高木まさき、植田恭子各氏

日本NIE学会 役員・委員長・顧問 (敬称略)

- 会 長 影山清四郎
- 理 事 蟻塚宰子、有馬毅一郎、有馬秀一、有馬進一、生田孝至、板垣雅夫、植田恭子、枝元一三、岡本利昭、小田迪夫、岸尾裕二、小原友行、阪根健二、笹栗洋、渋谷治美、高木まさき、高田喜久司、高辻清敏、寺尾健夫、寺尾慎一、渡久地政吉、富沢秀文、野津孝明、平石隆敏、富士原紀絵、古谷修一、松山雅子、宮園衛、毛利禎晴、本杉宏志、森田英嗣、門奈直樹、谷田部玲生、柳沢伸司、山口 満
- 常任理事 有馬進一、板垣雅夫、植田恭子、枝元一三、岡本利昭、岸尾祐二、小原友行、阪根健二、高木まさき、寺尾慎一、野津孝明、平石隆敏、森田英嗣、谷田部玲生、柳沢伸司
- 監 事 小田迪夫、高田喜久司
- 委員長 企画委員長(大会、研究発表会の運営等) 谷田部玲生
研究委員長(研究活動の推進等) 小原友行
機関誌発行委員長(会誌の発行等) 寺尾慎一
運営委員長(事務局の運営、会報の発行等) 枝元一三
- 顧 問 妹尾彰、鈴木伸男、上原勉

(任期は、平成19年度の総会まで。任期終了までに会員による選挙を行い、次期役員・委員長を選出する。)

第二回大会開催案内と自由研究発表の募集

実質上、日本NIE学会の最初の研究大会となる第二回大会は、以下のような概要での開催をめざして検討を進めているところです。

大会テーマ	「NIEで育てたい力」
日時	2005年11月13日(日)
会場	大阪教育大学天王寺キャンパス
10:00-12:00	自由研究発表
12:00-13:00	理事会
13:00-14:30	課題研究 「リテラシーを育成するNIEの開発～「これまで」と「これから」～」 コーディネーター：枝元一三(夙川学院短期大学) 「マルチメディア時代におけるNIEの可能性～なぜ今もNIEなのか～」 コーディネーター：小原友行(広島大学大学院教育学研究科)
14:45-16:45	シンポジウム 「NIEで育てたい力」
16:45-17:30	総会
17:30-	懇親会

正式な大会案内は9月中に会員の皆様にお送りし、また学会HPにも掲載する予定です。できるだけ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

自由研究発表の募集について

午前に予定しております自由研究発表の発表者を募集します。

内容は、NIE実践の報告からNIEの理論研究まで、とくに限定はありません。学会員の方でしたら、どなたでも応募できます。

発表時間は20分(+質疑10分)を予定しています。

自由研究発表を希望される方は、以下の事項を明記して、事務局宛に(宛先は会報1頁をご覧ください)郵送またはファックスかメールでお送りください。締め切りは8月5日(必着)です。

1. 氏名
2. 所属
3. 発表タイトル
4. 発表要旨(1200字以内)

各委員会より

【 企画委員会 】

企画委員会は、大会や研究発表会などの企画を行なう委員会で、首都圏を中心に活動しています。現在のメンバーは、高木まさき先生（横浜国立大学）、本杉宏志先生（東京都立町田高等学校）、有馬進一先生（藤沢市立大庭中学校）、岸尾祐二先生（聖心女子学院初等科）、谷田部玲生（国立教育政策研究所）の5名です。

現在は大会企画などを中心に検討していますが、数年後からは年1回程度研究発表会等を企画しようと考えています。

新しい学会にふさわしい企画のプランがございましたら、企画委員会までご提案ください。お待ちしております。

【 研究委員会 】

研究委員会では、次のような研究課題に取り組んでいきたいと考えています。

A 短期的な研究課題

これまでの優れたNIE遺産の掘り起こしと共有財産化

NIEの現状と課題の把握

- ・教育現場でNIE実践を推進するうえでの課題（実践上の課題、授業と評価・成績、新聞購読予算など）の整理
- ・新聞界独自のNIEへの取り組み（HP、ガイドブック、講師派遣、研究など）の現状と課題や、メディアリテラシーと新聞紙面（ジャーナリズム）のあり方などを整理

マルチメディア時代におけるNIEの意義、目標、可能性の明確化

B 中・長期的な研究課題

優れた実践の分析によるNIEの理論化と小中高大のカリキュラムづくり

評価規準の設定とそれをういたNIEの教育的効果の検証

これからの時代に求められる資質や能力の育成を目指したNIEの開発

NIEの課題や問題点の解決を目指したNIEの開発

「NIE学」の研究方法論の探求

また、このような課題を探求していくための具体的な研究委員会の今後の取り組みとしては、次のようなものを考えています。ご意見を頂ければ幸いです。

11月に大阪で開催される研究大会で短期的研究課題について発表

中・長期的な研究課題について、実践者、研究者、新聞関係者、市民などとの連携・協力による共同研究を企画・推進し、その成果を研究大会や学会誌で発表

「NIE学」の構築を目指した学会誌の発行と、図書（NIE入門、NIEハンドブック、NIE文献目録、NIE辞典、NIE講座など）の企画・出版

科学研究費の申請等によるプロジェクト型課題研究の推進

外国との交流など

【 機関誌発行委員会 】

本学会の紀要『日本NIE学会誌 創刊号』のための論文を、以下の要領で募集します。
特集テーマは、「日本NIE学会設立の意義と可能性」です。

投稿された論文は、査読後に委員会で採否を決定します。なお、初校の校正は著者校正で行いたいと思います。

については、会員の皆様には、ふるって投稿下さるようご案内申し上げます。

『日本NIE学会誌』投稿・執筆要領

1. 論文は、未公開のものに限る。ただし、口頭発表、プリントの場合はこの限りではない。
2. 論文の投稿締め切りは、毎年11月30日（必着）とする。
3. 論文は、パソコンまたはワープロで作成されたものに限る。論文の長さについては、本誌のページ数で8～10ページ（図表等を含む）とする。本誌の1ページの体裁は、A4判、横書き、横22字×縦41行の2段組で、使用する活字は10.5ポイントとする。上下左右25mmの余白を設け、図表等については余白の枠内に収める。
4. 論文の第1ページには、表題、著者名、所属を記入し、本文は10行目から書き始める。なお、表題と著者名については、英文（欧文）表記を添付すること。
5. 論文は、機関誌発行委員会宛に3部（コピー可）提出する。投稿に際しては、研究論文部門、実践論文部門のどちらに投稿するかを明記すること。併せて、著者名、所属、使用したパソコン・ワープロ使用機種ならびにソフト名を付記した、論文のデータが入ったフロッピーディスクまたはCD-Rを提出する。
6. 原稿は、下記宛に送付すること。

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1

福岡教育大学 学校教育講座 寺尾慎一 宛

【 運営委員会 】

第1回常任理事会

平成17年5月15日（日）午後1時から大阪教育大学天王寺キャンパスで第1回常任理事会が開催されました。

1. 設立大会の会計報告を了承
2. 各委員会からの報告
3. 事業計画

5月15日	第1回常任理事会
6月	会報創刊号発行（A4・8頁）
9月11日	第2回常任理事会
9月下旬	大会案内、出欠
11月12日～13日	第2回学会総会、第1回理事会、懇親会
12月	会報2号発行

第1回運営委員会

第1回運営委員会は、5月7日、大阪市立天王寺中学校で開催されました。

1. 事務担当決定
会報の発行 平石隆敏（京都教育大学）
ホームページの管理 森田英嗣（大阪教育大学）

会計、会員管理 枝元一三(夙川短期大学) 岡本利昭(大阪教育大学附属平野高校)
記録 和泉敬子(大阪府立東百舌鳥高等学校) 角森久美子(大阪市立西九条小学校)
会場 辻井 義彦(大阪市立天王寺中学校)

2. 事業計画 (内容は常任理事会報告のとおり)

3. 会報の内容について

4. 連絡事項 会員の管理については現在216名(5月7日現在) であるが、少しずつ増加している。また法人会員も8社であるが、これも増加の見込みであることを報告。会員であって会費未納の方が若干あるので、これをどうするか検討した。

地区支部の活動

関東地区

関東地区の学会員の交流会を下記の要領で開催いたします。

日 時： 8月27日(土) 午後1時30分から4時30分まで

場 所： 新聞博物館内NIEセンター会議室

テーマ： NIEに期待するもの

内 容：

- ・新聞博物館見学(午前中、各自で自由に。入館料は学会員であることを受付で申し出ると無料にさせていただきます。)
- ・市民活動とNIE(市民からみた新聞活用)
- ・会員の学会への期待・希望等についての意見交換

申し込み：学会事務局へファックスまたはメールで、8月10日まで

Fax：045 - 339 - 3433

E m a i l kseishiro@edhs.ynu.ac.jp

(横浜国立大学教育人間科学部 影山清四郎)

四国地区

日本NIE学会四国地区集会(第1回) が6月11日(土) 香川県高松市内のホテルで開催された。本集会は、香川県NIE研究会(香川県NIE推進協議会管下) と合同で開催され、香川を中心に、徳島、愛媛県の小中高校教員や香川大教員、香川大教育学部の学生、新聞社(愛媛新聞、四国新聞、産経新聞) の担当者など30人を超える参加があり、盛況なスタートとなった。

集会では、現在香川県で実践中の小中2校からの取り組み事例を発表した後、高松市立光洋中学校の前野勝彦教諭(学会正会員) が、昨年度末に参加した米国での海外研修での成果を報告した。また、産経新聞社新人記者からのミニ講演もあわせて行われた。

意見交換では、基礎学力(読解力) 向上と社会性の育成という課題で行ったが、そこでは「読解力の向上は、国語だけのものという発想ではなく、全ての教科学習や社会生活の基礎になるのではないか」「社会の知識や経験(文化リテラシー) がないと、社会性はもちろんのこと、学力の向上につながらないのではないか。その点で新聞は社会の窓口として有効な手段ではないか」などの意見が出た。

今回は、NIE週間中の11月11日(金) 夜に、高松市内で開催される予定である。

(香川大学教育学部 阪根健二)

会費納入のお願い

会費納入がまだお済みでない方は、会費の納入をお願いいたします。
会費は年額5000円で、郵便振替の払込口座番号は下記のとおりです。

口座番号 00930-1
口座番号 77988
加入者名 日本NIE事務局

日本NIE学会ホームページ開設のお知らせ

学会ホームページが開設されました。現在、学会設立趣意書、学会規約、学会規約実施細則、役員・委員長・顧問、各種委員名簿、設立大会報告などがアップされております。ぜひご覧ください。

アドレスは下記のとおりです。

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~care/NIE/index.html>

なお、本ホームページに関するお問い合わせは下記までお願い致します。

大阪教育大学教育実践総合センター 森田 英嗣

morita@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

TEL & FAX 0729-78-3816

会報ニュース

日本NIE学会が学術団体として認知されるよう、日本学術会議の関連組織である「広報協力学術団体」に登録を申請しています。

今年度中に会員名簿を作る予定で準備中です。会費未納の方はできるだけ早く納入してください。

事務局に下記の書籍が寄せられました。新聞記事をもちいた大学での法律教育についての実践報告です。

三谷 晋・新城将孝・小森雅子・武市周作編

「法学 沖縄の法律事情」(琉球新報社、2005年4月、2415円)

6月中旬までに法人会員としてご協力をいただいている団体は次頁の通りです。大変ありがたく厚く御礼申し上げます。(五十音順)

朝日新聞社
大阪書籍
神奈川新聞社
産経新聞社
山陽新聞社
JTB西日本営業部
清風学園(大阪)
中国新聞社
東京書籍株式会社
西日本新聞社
日本経済新聞社
北海道新聞社
毎日新聞社
光村図書出版株式会社関西支社
淀の水高等学校(大阪)
読売新聞社

この欄ではみなさんからの投書なども紹介していきたいと思っています。
今回は最初ですので、設立大会のアンケートから少し取り上げてみました。

Kさん 新聞を通して教員、研究者、マスコミ、市民...とそれぞれの立場からそれぞれの課題を考え、共有し、相互の情報提供ができる、そんな風通しのよい組織になっていくことを期待したい。

Mさん ぜひ研究誌を発刊し、多方面の取り組みを共有する場を作ってほしい。海外でのNIEの到達点を紹介する企画があってもいい。そして、よい研究論文は年一回の総会で表彰し、NIE学の研究が進むよう刺激を与えてほしい。

Tさん 実践の紹介をホームページにのせてくれるとありがたい。

Hさん 東北や九州などのレベルで支部の設立と研究会の開催を希望します。

Tさん 実践者の仲間づくりを本会に期待しています。

Yさん 各地で開かれている全国大会とはどのように関わっていくのか。あるいは、先行している全国大会とどう連携し、NIEを拡大、深化させていくのか、具体策も含めて検討していきたい。

Sさん 多くのNIE批判に対して、被害者意識を持つよりも、真摯に受け止めどんなNIE実践に問題があるかという次元での研究をしていただきたい。

この他、30名近くの方々から貴重なご意見をいただきました。紙面の関係で全員の分を掲載できませんが、ご意見はどしどし事務局へお寄せください。